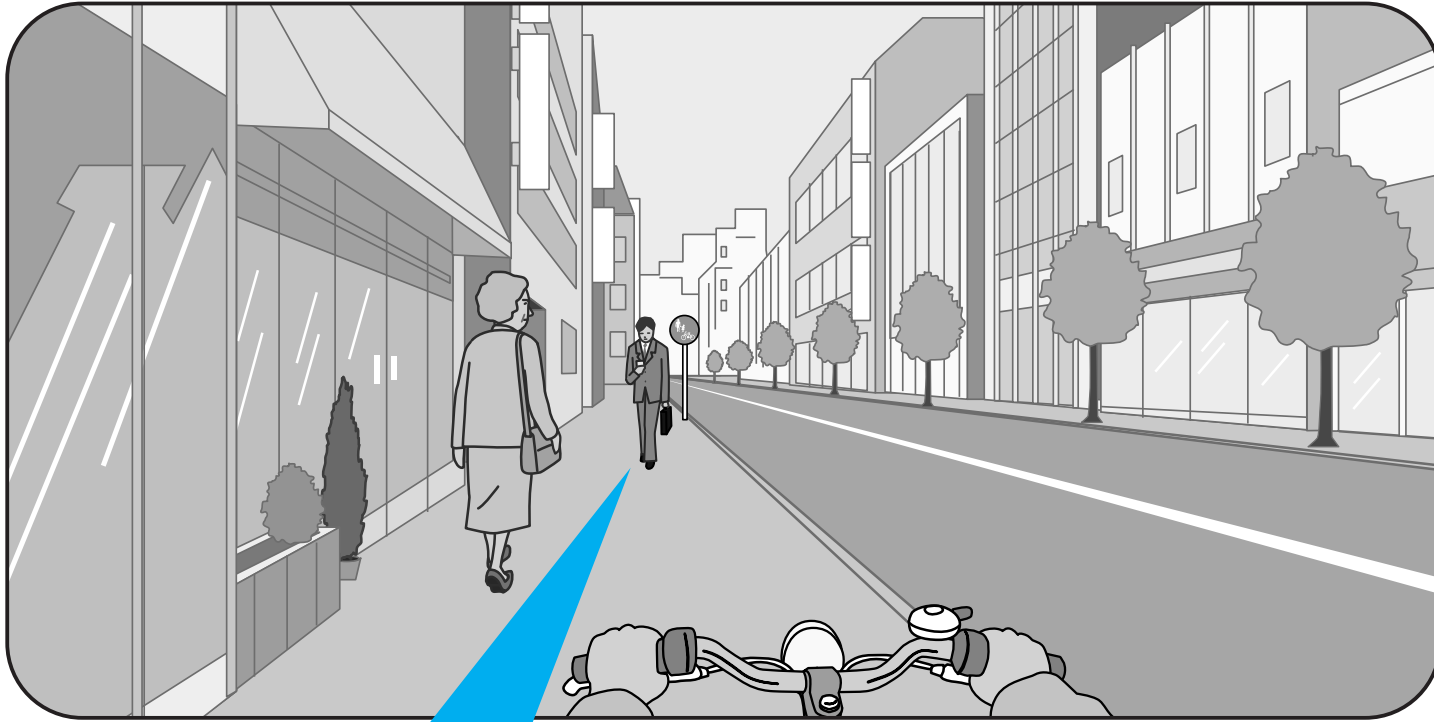


危険予測トレーニング(KYT) —危険感受性を育てる

第24回 自転車通行可の歩道を走行する(自転車)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、自転車通行可の歩道を走行する時の危険について考えてもらうためのKYTです。



活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

ホンダ SJ

検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL: 03 (5412) 1736
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

あなたは自転車通行可の歩道を走っています。
あなたの左側には女性があり、正面からは男性が近づいてきています。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

©本田技研工業(株)

指導者ファイル 5

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。



東根市交通安全専門指導員の皆さん
小野江里子さん(左)、岡田誠さん(右)

保護者にも交通安全について理解してもらおう

東根市は山形県中央部の村山盆地に位置し、近年は人口が増加傾向にある。その東根市の交通安全教育を担っているのが、同市生活環境課市民生活係・交通安全専門指導員の岡田誠さんと、小野江里子さんだ。平成22年度は、二人で幼児、小・中学生、高齢者等を対象にした交通安全教室を約150回開催し、1万人以上に啓発活動を行った。

東根市では、「かもしかクラブ」での親子訓練による交通安全教育に力を入れている。「かもしかクラブ」とは、3～6歳未満の幼児と母親(保護者)が一緒になって交通安全を学ぶための組織だ。主に保育所や児童センター、地域の施設で活動している。「特に幼児への交通安全教育は、家庭で繰り返し実践していただくことが重要です。お子さんだけではなく、保護者の方にも交通安全についての必要な知識を持ってほしいと思っています。子どもにとっての一番の先生は保護者の方なのです」と小野さんは話す。

幼児が参加する訓練は月に1回行っており、そのうち親子訓練は1年間に4回実施している。まず春(4～5月)は交通安全の基本として、道路を渡る時のルールである「ストップの約束」を伝える。(山形県では、「ストップ→手を上げる→右、左、右を確認し

て渡る」という約束を啓発。東根市では「右、左、右」に、「後ろ」を確認することも加えている。夏(6～9月)は、「ストップの約束」を守らないとどうなるか、実車と人形を使って模擬の飛び出し事故を見てもらう。秋(10月)は、周辺の道路を親子で歩く訓練、冬(2月)は、まとめとして、保護者の代表者数名が指導者となって自主的に訓練を行うそうだ。

一方、岡田さんは小・中学生への自転車教育でも活躍。「市内の公立小学校9校で、主に3、4年生を中心に自転車教室を行っています。児童に自転車で学校周辺の道路を走ってもらいながら、安全運転のポイントを伝えています」。その中でも、岡田さんは歩道を自転車で走る場合に、歩行者優先の意識を身につけてもらうことを意識しているという。

『あやとりい』を活用した教育を展開

東根市では今年夏から、Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」を幼稚園や保育所での交通安全教室に取り入れている。


「今年7月、山形県北村山地区の指導員が集まった研修会の際に、本田技研工業(株)安全運転普及本部栃木普及ブロックのインストラクターの方から『あやとりい』による指導法を学ぶことができました。ワークシートやイラストの大きさと色づかいが子どもにわかりやすいと思ったので、すぐに活用しました。CDを使って街中の交通に関わる音を聞かせて、子どもに答えてもらう『音当てクイズ』は以前からほしいと思っていた教材で、実際にやってみると子どもにも好評です。まだ使い始めて間もないので、これから自分なりの工夫を加えながら、子どもたちへのよりわかりやすい指導をめざしていきたい」と小野さんは力強く語った。



SJクイズ ?

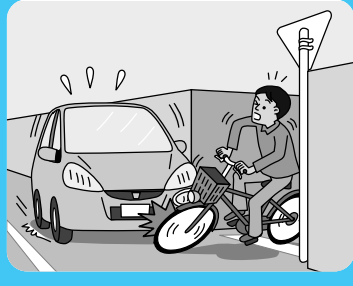
Q1 平成22年の自転車対歩行者の交通事故件数は2760件ですが、これは10年前の何倍でしょう？

- ① 約0.9倍
- ② 約1.1倍
- ③ 約1.3倍
- ④ 約1.5倍



Q2 平成22年の自転車(第1・2当事者)の法令違反別交通事故死傷者数をみた場合、最も多い違反は「安全不確認」ですが、その構成率が最も高い年齢層は次のうちどれでしょう？

- ① 15歳以下
- ② 16～24歳
- ③ 25～64歳
- ④ 65歳以上



Q3 ブレーキ(制動装置)は自転車の保安部品の1つですが、前輪または後輪のみにしかブレーキが付いていない自転車で公道を走るのは違反になるのでしょうか？

- ① 違反である
- ② 違反ではない

※「解答」は8面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

©本田技研工業(株)